

選択した研究領域の科目と、それ以外の科目より1科目以上の計2科目8単位以上が必修となっています。（1科目は4単位です。）

1科目につき、レポートを4課題提出・合格することにより単位を修得します。

研究領域

〔 児童教育学特殊研究 〕

児童教育学研究の課題の一つは、実際の個々の子どもの具体的な活動を、相互行為論に基づきながら、その活動の過程と構造を質的に解明することにある。この特殊研究では、相互行為論としてコミュニケーション的行為論、そして質的研究法としてデーターから理論仮説を生成する精度の高い Grounded Theory Approach を修得することを主眼におき、実践研究を目指す学位論文作成に資するような指導を行う。

研究領域

〔 児童発達学特殊研究 〕

児童期から青年期にある子どもの発達研究、および子どもと関わる親や教師に関する発達心理学・教育心理学研究の理解を深める。それを踏まえ、発達心理学や言語心理学を中心とした教育心理学、および読書・読書指導の心理学的検討を軸に学位論文の作成に資する力量を養う。

研究領域

〔 保育学特殊研究 〕

保育という営みは、幼児が養育者に依存しながら、自らの自立を獲得していく過程で、幼児に対して必要かつ十分な援助をする行為であり、特に施設保育の場合、集団を対象とするところから、「援助」を成立させるには、幼児（群）の生活過程、集団的関係、モノとの関係において、十分な理解が前提にある。この幼児理解の特色を踏まえ、理解を深めることを目的として課題研究を行う。

関連領域

〔 児童保健学特殊研究 〕

子どもの成長発達において、精神と身体が統合されるのは一つの達成と考えられるが、様々な要因によって妨げられ、結果的に多彩な障害が引き起こされる。生理学、病態学的観点に基づき、健全な発育を推進するための保健学的方法論を追及し、学位論文に資するよう指導を行う。

関連領域

〔 児童福祉学特殊研究 〕

子どもの福祉問題を解決するためには、問題解決の鍵をにぎる地域社会を分析、評価する視点を実践活動を通して地域社会と関連づけながら把握しておくことが必要である。さらに、地域にねざした援助活動の方法論を理解することも必要である。社会学を中心とするコミュニティ理論の研究と地域社会への専門的接近方法としてのコミュニティワーク理論、地域福祉計画論、社会計画論などの研究を中心にして、学位論文の作成に資するような指導を行う。

関連領域

〔 児童文化学特殊研究 〕

児童文化学構築のための基礎的研究として、日本文化、比較文化に関する内外の文献研究を行うとともに、児童文化学の在り方について、また児童文化そのものの現状とあり方について考察する。

関連領域

〔 保育マネジメント特殊研究 〕

近年、保育や幼児教育の現場では、保育士や幼稚園教諭のキャリア向上、幼児の事故や保護者対応に関わる諸問題等、従来にはなかった課題が増えている。そこで、保育所や幼稚園等の管理者や経営者を主な対象として、保育現場における管理・経営についての考察を深めるとともに、諸問題に関わる事例分析を通して、博士レベルの保育のトップリーダーの力量向上を図る。

関連領域

〔 教科内容学特殊研究 〕

教科内容学は、「教科内容を教育実践との関連で研究する」学問である。すなわち、学問や諸科学等の研究成果の内容が子どもの認識と成長にどのように寄与するかという教育の観点からその内容や価値を捉え、教科内容を創出することを目的としている。そこで、本科目は、そのための概念や研究方法を理解するため、受講生の研究課題との関連で、文献購読やそれを踏まえた議論を展開し、教科内容学研究の方法を考究する。